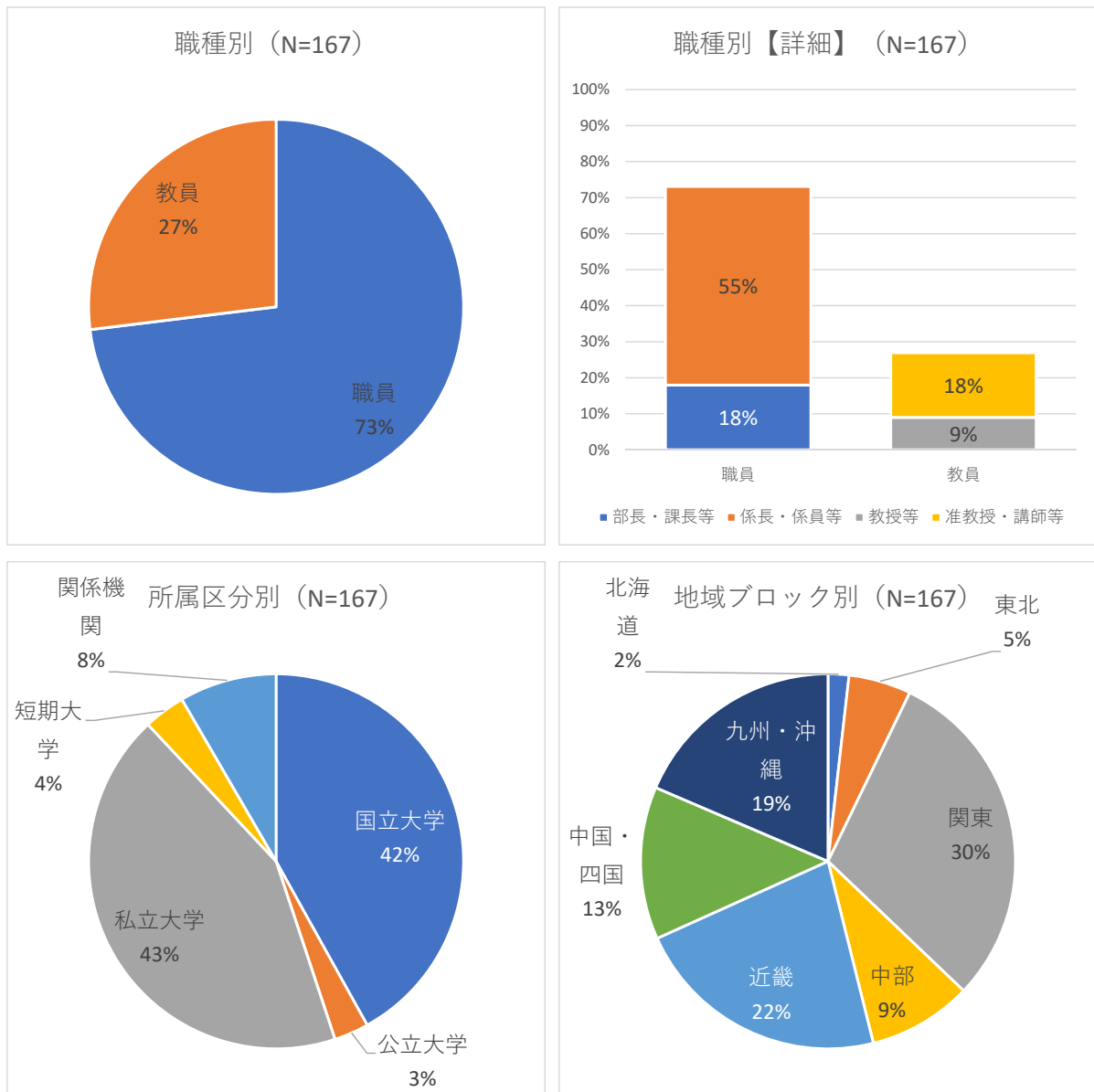


○ 参加者について

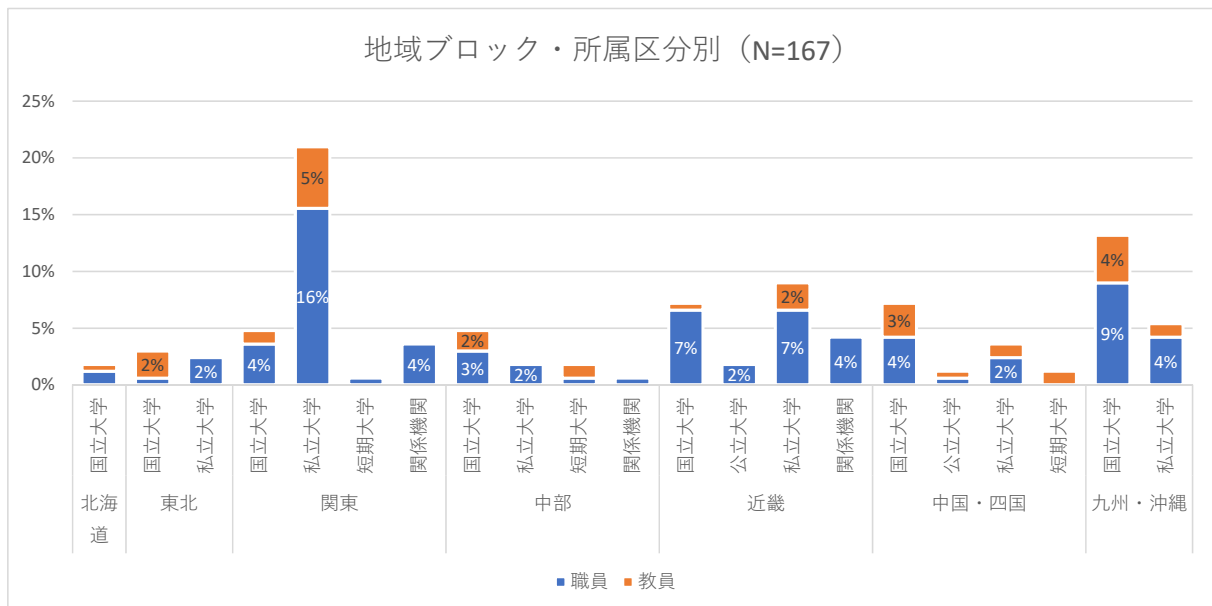
1日目（8月22日）に開催したキーセッション「評価人材、IR人材に求められる能力」には、計167名が参加しました。参加者の属性分析は、申し込み時に参加者からご提供頂いた所属や職種等の情報を基に行いました。なお、「参加者」とは、国公立大学、短期大学及び関係機関の「通常会員」であり、運営スタッフである「幹事」及び「運営協力者」の14名を含んでいます。

職種別の参加比率では、職員が73%、教員が27%でした。また、職員の職層を「部長・課長等」及び「係長・係員等」、教員の職層を「教授等」及び「准教授・講師等」に分けて示すと、職員の係長・係員等が55%と最も多く、次が職員の部長・課長等及び教員の准教授・講師等の18%でした。

所属区分別では、国立大学が42%で、私立大学が43%とほぼ同じ割合でした。また、地域ブロック別では、関東地方が30%、近畿地方が22%、九州・沖縄地方が19%と、交通の便がよい大都市圏と西日本から多く参加されていることが伺えます。



地域ブロック・所属区分別と職種別をあわせて確認すると、関東地方の私立大学の教職員が21%と最も多かった。職員については、九州・沖縄地方の国立大学が9%でした。



キーセッションは、担当者集会最初のイベントということもあり、多くの方が参加されていた。また、「評価・IR人材育成の課題と展望」では、専門人材（評価、IR、URA等）の必要性、日本及び米国におけるIR人材育成、今後の展望等、「我が国のIR担当者の現状について」では、平成30年7月に実施した「IR担当者実態調査」の結果（速報版）について報告を行ったことから、人材育成に関する考え方、我が国においてIR担当者に求められる能力とその素養に関する回答傾向等について関心が高かったと推察されます。

(大野 [鳥取大])

■区分表（共通）

地域ブロック	説明
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
中部	新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県
近畿	大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、三重県、滋賀県、和歌山県
中国・四国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
その他	米国

職種	職種区分	説明
職員	部長・課長等	部長、課長、課長補佐、副課長、専門員、グループ長、グループリーダー、総括主査、事務長、室長、次長、部長、参事、副参事、など
	係長・係員等	係長、主任、主査、主事、専門職員、課員、係員、チーム員、職員、スタッフ、所員、特任研究員、など
教員	教授等	学長、副学長、学長補佐、部局長、教授、など
	准教授・講師等	准教授、講師、助教、など